



(特非) ぎふ木と森の学校

茅場復元による 生物多様性の推進及び 循環型農法の確立(継続)

入門助成

2年目

実践

イベントの
延べ参加者数

100人

助成活動がメディアに
掲載された回数

1回

活動の全体目標に
対する達成度

80%

課題

岐阜県揖斐川町春日六合において長年放置されたままの茅場の復元を目指してネザサやススキなどを刈払い、雑木の除伐によってササユリやカタクリ等の希少植物を再生したい。

目標

当該地区の環境を活かした循環型農法の確立、生物多様性、景観及び地域文化の継続活動を発信するとともに都市農村交流の活発化を図り、多くの人々をこの地に招き入れることによって経済効果を高め地域振興に繋げる。

活動内容

岐阜県の内外から約50名の参加者を得て「ぎふ・春日の茶栽培を考える～お茶を生涯とする～」と題するシンポジウムを開催し当該活動の啓蒙を行った。また岐阜県立森林文化アカデミーの協力を得て茅場の植生調査を行った。さらに茶摘み、ワラビ採り、三年番茶づくりなどグリーンツーリズムを企画・実施した。茅場を通る遊歩道を地域住民と共に造りそれがマスメディアに取り上げられ2万人が訪れる観光スポットとなった。



天空の茶畑見学

達成できなかったこと

一躍観光スポットとなったため、地域の受け入れ態勢が整わず、車誘導などに多くの時間を費やされ来場者に対して当該活動活の詳しい内容等について十分な説明ができなかった。

今後の展望

全国レベルの観光スポットとなり、お茶に関わるグリーンツーリズムなどで地域貢献できる道が開けた。

成果と工夫した ポイント



成果

2回の植生調査で45科80種の植物の生育が確認された。昨年と比べ34種が姿を消し、新たに23種が加わった。再生を目指しているササユリは開花はなかったものの調査地内で多く点在していることが明らかになった。

工夫

「天空の茶畑」としてこの地が多くのメディアに取り上げられた結果約2万人が訪れ活動が認知された。